

魔界ってほん魔界!?

第15界

京の魔界を巡らし、そのナゾに迫る「京都魔界巡礼団」。そのオカルト・古代史マニア集団が「京都チャンネル」に乗り込み魔界紀行番組を作ったと聞いて、奇々怪々興味津々と参加志願をした本誌編集部員達。さて魔界の真の姿とは…



中山団長

南副団長

「京都魔界巡礼団」

■レギュラー団員■

小橋伸一(ディレクター)・佐々木真(アシスタントディレクター)
丘真奈美(放送作家・超古代史ジャーナリスト)・加納進(京都の史跡を訪ねる会会長)

日向レイライン、京都御苑へ



京都御苑「奉町御門」

伊勢神宮の「氣」を京の都へ取り入れる為の装置である日向大神宮裏山の謎の鳥居から発したレイラインは、平安神宮大鳥居の真ん中を通過し、いよいよ御所に向かう。私達は気軽に「御所」っていうが、現在の正式名称は「京都御苑」と言い、北よりに「京都御所」が東側に「大宮御所」「仙洞御所」がありその周りを御苑がとりまく市民憩いの大緑地である。

その時！東へ動いたのは御所だった



千本丸太町交差点の「朝陽院跡のイラスト」

平安京中御所「藤原基経の石碑」

千本丸太町交差点

伊勢神宮から出たレイラインは日御山鳥居を通りかか平安神宮の大鳥居を貫いていた。平安神宮は明治28年「建部1100年祭」の時に京都三大事業の一つとして建立された社である。社殿は平安京の大内裏・朝堂院を模してつくられた王朝風のもので平安京が偲ばれる建造物だ。ここに祭られるのは平安京の創始者・桓武天皇と、平安京最後の帝・孝明天皇である。その表玄関のランドマークが大鳥居である。



レイラインが入る門は何処…?

南院御門



石南御門



奉町御門

超古代史ジャーナリスト/丘真奈美

京都御苑は明治2年(1869年)までの500年間皇居として機能しており、天皇がお住まいになっていた。京都御所は江戸期の大火で炎上し徳川幕府が再建したが、第二次世界大戦の時に空襲を避け建物の一部取り払われたままである。我々巡礼団は、京都御苑へ向かい件のレイラインが御苑内に差し込んでいる入り口を探した。御苑東側には3つの門がある。さて、レイラインはどの門から入っているのか。

【魔界TVシリーズ再放送予定の問い合わせ先】

京都チャンネル(スカイパーフェクトTV ch.276)
<http://www.kyotochannel.com/> 075-253-0609 (FAX)

京都お箸の文化資料館

お箸

It's a world ver.

アカデミック・シティ京都に隣む偉大なるミニマム博物館を標榜した京都チャンネル「It's Small World」を、京都CF!が徹底検証する知的教養コーナー!



左より、徳川家で使用された毒見箸、若狭の漆箸最高級品。現在でも天皇家で使用されているものと同じ柳材の丸箸、アイヌの木工技術から生まれた民芸箸

展示物は井津氏の呼びかけで各地の箸業者から寄付されたものも多数。本展や講演活動で多くなされたが、在館時には箸にまつわるさまざまな歴史を語ってくれる



「たまたま箸を置いても面白くないやろ」と、全国各地の民謡に登場する巨人が使うことを想定した巨大箸をひくと聞えに



あらかじめ形状に加工されている椀材を専用のかんで成形する作業が体感できる箸作りの工房。事前予約が必要



ハシからハシまで全部箸！大和魂のルーツ、ココにあり!?

ひと昔前のテレビCMで、「お箸の国の人だもの」と三田佳子がかぶっていたが、果たして日本人はそう自負するだけの箸知識を持っているのだろうか？「単なる道具でしょ」。そんな風にしか語れない人にはぜひともこの資料館へ足を運んでいただきたい。館長の井津明榮氏は、奈良県吉野で600年以上前から箸作りを営んできた旧家の子孫。亡き父は天皇家御用達の箸職人だったというから、その由緒正しさは折り紙付きだ。井津氏もまた京都で家業の箸問屋を営んでいるが、70歳を迎えた1996年、「今まで無事に仕事が出来たご恩返しに」と当資料館へ足を運んでくれた。1階には、全長2mのジャンボ割り箸、吉野杉の割り箸、天皇家御用達箸と箸作り体験工房があり、2階には全国各地の伝統工芸箸、中国・朝鮮半島や東南アジアの箸、江戸時代の毒見箸など約450点を展示している。「箸の起源は中国ですが、和食様式が定着した室町時代から箸だけで食事をするようになったのは列記とした日本文化です。その応用力や器用さは誇りに思えます」と井津氏。日本人たるプライドは意外と身近な、箸に凝縮されていたのだ。

●京都お箸の文化資料館
きょうとおはしのふんかしりょうかん
■京都市山科区御陵天徳町29
☎075-595-0919
10:00～16:00/火休

箸を専門に扱う資料館としては全国、いや全世界でここだけ。入館料は無料

太夫とは？ 第九幕「舞妓としての出発」編

「正五位」の宮祇で、歌舞音曲の他、茶・華・香・歌など公家や武家の奥方同様の知識を持った舞妓に与えられた舞妓の最高官位のこと。現在は8花出のうち京都・輪原のみに4人現存し、司太夫はその内のお一方。中学卒業後祇園甲部で舞妓となり、6年勤務後その後太夫への道に進む。芸事、日本画・写真・手紙を勉強し、フリーペーパー「こたたい新編」の発行やイベント企画など活動の場は広い。

花の魁
舞妓の宿だし
発車オーライ

司のこたたい花語

Tsukasa



「都をどり」は、ヨ〜イヤサ〜とかん高い呼び出しで始まる。祇園甲部の「都をどり」。春は各花街で様々な「踊り」が始まります。この踊りの前に大きく花が開くのを知っといやすか、各花街で舞妓たちがデビューしだすんです。3月に、中学を卒業したての15歳の女の子たちが、京都にやってきます。在学中に親同伴で先に面接を済ませ、合格した者だけが「仕込み」と言われる修行期間に入ります。置屋で住み込み、お姉さん舞妓の身の回りの世話をしたり、掃除や洗濯等お手伝いさんのような事をしながら、しきたりや作法を覚え、舞のお稽古に通います。その間約1年、一生懸命頑張ってやっとこの時期に、花が開くんです。目はキラキラ輝き、切っけいってほんま可愛いいらしおすえ。日々磨かれ奇麗になんのだすけど、「いつまでも舞妓さんらしく可愛いいてや」と願ってます。

司事務所
<http://kyoto.cool.ne.jp/~tukasa21>